

○ 80歳代になっても長寿を重ねられる医療、介護、健康づくりは、
少子化への対応とともに最大の政策課題

- ・ 令和13年度開院に向けた公立さがえ西村山医療センター(仮称)(新病院)の医師をはじめとする医療人材の確保が極めて重要
- ・ 河北町の地域医療を確保するため、新病院への交通手段、移動手段の確保、一次医療を担う開業医、クリニックの医業承継が重要な政策課題
- ・ 河北町では2つの病院(県立河北病院・小原病院)と15の診療所が地域医療を支えている河北病院においては、令和4年度から総合診療医の配属が始まり、複数の疾患や様々な問題を抱える患者にも対応できる診療機能や救急医療が年々強化されてきた。
本年度は総合診療医が10人まで増員され、令和6年度に開設された地域医療連携ステーションを中心とした介護施設や開業医、行政との連携強化、訪問診療の拡充が図られている。
- ・ 河北町では、今年度から12「地域公共交通計画」を策定しました。町民一人一人のいきいきとした生活を支え、町の魅力を活かす移動手段を基本理念に掲げ、通学とともに通院を支える移動手段の確保を取組方針に据え、町民が安心して新病院に通院できる移動手段、交通アクセスの確保に取り組んでいく。
- ・ 新病院に患者をつなぐ開業医には、地域住民に身近な「かかりつけ医」としての役割、加えて、外来診療、休日診療、在宅医療、学校医・産業医、健診・予防接種業務など、重要な役割を担っていただいております。本年度から、新たな取り組みとして、医業承継に向けた支援スキームの構築に取り組んでいくこととしています。
- ・ 県や医師会等関係機関からの協力を得ながら、地元の一次医療体制を守るために有効な支援方法を研究し、必要とされる医業承継への支援の仕組みを検討していく。